

JILPT 資料シリーズ

No.156 2015年 5月

# 大学キャリアセンターにおける就職困難学生支援の実態 —ヒアリング調査による検討—

大学キャリアセンターにおける就職困難学生支援の実態  
—ヒアリング調査による検討—

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

The Japan Institute for Labour Policy and Training



## まえがき

新規大卒者の採用場面では、一定レベルの基礎学力とともに、面接でのやりとりから推測される人物評価や行動特性が依然として重視される傾向にある。このような環境下では、面接での即興のやりとりを不得意とする学生や、コミュニケーションを元々苦手とする個人特性を持つ学生は、人物評価で高得点を得ることは難しく、結果として、景気動向に関わらず就職決定に苦勞する可能性がある。一般的に企業は人物評価を重視する採用方針であるため、このような若年者は就職困難者に陥る危険性を常にはらんでいると言える。大学では、就職課やキャリアセンターが、一般の学生への就職ガイダンスに加えて、そのような就職困難に陥りそうな学生を丁寧に個別支援する体制を整えている。時にはキャリアセンターだけでなく、教員や学生相談室等と協働して支援にあたっている。本書では、大学キャリアセンターが特に就職困難な学生に対して具体的にどのような支援を行い、成果を上げているかという実態をとりまとめたものである。

本研究の出発点は、2013年に公表したJILPT資料シリーズNo. 123「若年者就職支援機関における就職困難者支援の実態」である。特に心理系の大学教員から反響があり、大学にも同様の就職困難な学生が存在するが、教員が対応に苦慮しており、他大学の事例をぜひ聞きたいとの声を各方面から聞いた。一方、2014年に公表した大学等キャリアセンター調査（JILPT調査シリーズNo. 116）では、キャリアセンター職員が教員との連携や協力を強く期待する声も上がっていた。本研究では、このような大学における就職支援の実態を、できるだけ偏りのないよう大学を選定した上で、聞き取り調査を依頼することとし、結果として全国17大学からご協力をいただくことができた。選定先の大学教職員の方々には、それぞれ長時間にわたるインタビューだけでなく、本書資料編の文面確認にも真摯にお付き合いいただいた。ご多忙な中でのご協力にあらためて感謝の意を表したい。教職員の方々のインタビューには、困難を乗り越える様々な取り組みの中に有益なヒントがちらりばめられており、そのご努力には頭の下がる思いである。

本書が、大学関係者や若年者への就職支援の現場にたずさわるの方々のお役に立てる情報となれば幸いである。

2015年5月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構  
理事長 菅野和夫

## 調査担当者と執筆分担

[氏名]	[所属]	[執筆担当]
ふかまち 深町 たまゆ 珠由	労働政策研究・研修機構 副主任研究員	全章

### 研究参加者一覧（執筆者を除く）

室山 晴美 労働政策研究・研修機構 統括研究員

# 大学キャリアセンターにおける就職困難学生支援の実態 —ヒアリング調査による検討—

## 目 次

まえがき

### 第Ⅰ部 調査・分析編

1. はじめに .....	1
1-1 調査の背景と論点整理 .....	1
1-2 方法 .....	5
1-3 調査結果の整理にあたって .....	7
2. 大学就職課／キャリアセンター ヒアリング調査結果の概要 .....	9
3. まとめ .....	67

### 第Ⅱ部 資料編

A 大学 .....	76
B 大学 .....	82
C 大学 .....	91
D 大学 .....	97
E 大学 .....	104
F 大学 .....	109
G 大学 (※女子大) .....	115
H 大学 .....	124
I 大学 .....	131
J 大学 .....	138
K 大学 .....	145
L 大学 .....	152
L 大学 (教員ヒアリング) .....	159
M 大学 .....	163
N 大学 .....	173
O 大学 .....	182
O 大学 (教員ヒアリング) .....	188
P 大学 (※女子大) .....	193
Q 大学 .....	201
■ 調査に用いたヒアリングシート (キャリアセンター職員用) .....	209
■ 調査に用いたヒアリングシート (教員用) .....	211

